

平成22年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立津幡高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 基礎・基本の徹底(授業改善の継続、言語活動の充実、朝学習の徹底)	① 教材や指導方法を工夫し、わかりやすい丁寧な授業を実施する。	積極的に授業改善に取り組み、わかりやすい丁寧な授業を実施していると答える教職員が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	12月教職員学校評価より A 98%	98%の教員が「授業改善に積極的に取り組んだ」と回答しており、すべての教科で研究授業・研究協議会を実施し、よりよい授業づくりに努めている。しかし、授業内容がだいたい理解出来ていると答える生徒の割合は一昨年(73%)、昨年(74%)今年(74%)とほぼ横ばいである。今後、生徒の学習意欲を喚起する教材や指導方法を工夫するとともに、さらにわかりやすく丁寧な授業づくりを目指して、授業の工夫改善に学校全体で取り組んでいきたい。
		授業内容はだいたい理解出来ていると答える生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	12月生徒授業評価より B 74%	
	② 授業等で書くことを中心とした言語活動を積極的に取り入れ、主体的に学ぶ態度と思考力、表現力を育成する。	積極的に言語活動を取り入れていると答える教職員が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	12月教職員学校評価より A 82%	授業等に積極的に言語活動を取り入れていると答えた教職員は、昨年は26%であったのに対し、今年度は82%と大きく伸びている。朝学習とともに、より多くの科目で積極的に言語活動を取り入れることにより、主体的に学ぶ態度と思考力、表現力の育成を図りたい。
	③ 朝学習を実施し、積極的に学習に取り組む態度を育成する。	積極的に朝学習に取り組んでいると答える生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	12月生徒学校評価より B 79%	毎朝10分間の朝学習をスタートさせ、教職員全員による手作りの教材を使用して、積極的に学ぶ態度と思考力・表現力の育成に取り組んでいる。生徒の取組状況も概ね良好であり、朝の落ち着いた学習環境が整いつつある。今後さらに充実した学習活動となるよう工夫を重ねていきたい。
	④ 生徒の体力増進に努め、たくましい人間づくりをめざす。	持久走の前回記録を超えた生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	10月持久走の結果より D 54%	「体力アップ1校1プラン」の取組として、体育の授業開始時にグラウンド外周を走ることに、持久力の向上を目指してきた。5月と10月のタイムを比較したところ、記録が向上した生徒は54%であり、目標の70%には到達しなかったため、今後さらに取組を強化したい。
学校関係者評価委員会の評価	生徒が興味をもって自分から進んで学習できる環境が必要なのではないか。どういう授業を望んでいるのか生徒にアンケートをとるなどして調査・分析し、授業改善の実効が上がるよう工夫をしてもらいたい。体力増進については、必ずしもタイムを縮めることに拘ることなく、一人ひとりに適した方法でやってもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	生徒の学ぶ意欲を喚起し、学習内容の理解を深めることができるよう、生徒が理解できていない内容・分野等について調査・分析し、授業改善の取組をさらに充実させる。また、体力増進については一人ひとりに合った方法を工夫し、日頃から少しずつ地道に進めていきたい。			
2 基本的な生活習慣の確立(挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底)	① 保護者と連携して交通安全・挨拶運動等に取り組み、生徒のマナー向上を図る。	生徒のマナーがよくなったと思う保護者が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。	12月保護者学校評価より A 80%	保護者との連携で行う交通安全指導や生徒会執行部・運動部などによる“あいさつ運動”、教職員による登校指導の成果として、概ね満足している。ただ、挨拶のできない生徒もいるので、教職員の方から声かけをし、元気のよい挨拶を促す取組を継続していきたい。
	② 規則正しい家庭生活を送るよう指導することで、遅刻の減少に努める。	年間10回以上遅刻する生徒数が、昨年に比べて A 30%減少した。 B 20%減少した。 C 10%減少した。 D 減少しなかった。	教務課年間集計より 本年度43人 前年度41人 D 5%増加	年間10回以上遅刻する生徒は、19年度64人、20年度50人、21年度41人と減少してきたが、本年度は43人で、前年度より増える結果となった。今後さらに遅刻防止の指導を徹底し、基本的な生活習慣の確立に努めていきたい。
	③ 清掃の徹底により、学習環境の向上とさわやかで心豊かな学校生活の実現を図る。	清掃は徹底されていると答える保護者が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。	12月保護者学校評価より A 79%	放課後の清掃の徹底、長期休業前後の大掃除、定期考査期間中の全員清掃等を通じ、環境美化を図ってきたが、一部の教室、廊下、階段等で清掃が徹底されていない状況も見受けられたので、今後さらに美しい環境作りに努めたい。
学校関係者評価委員会の評価	交通安全・挨拶運動に参加したが、生徒の声が小さかったように思う。元気よく大きな声で挨拶ができるように育ててもらいたい。基本的な生活習慣については厳しく指導してもらいたい。規範意識の確立のためには家庭教育も頑張らなければならない。自分のちょっとした行動でも他に与える影響が大きいことを教えなければならない。			

学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	生徒会執行部を中心に積極的な挨拶運動を展開するとともに、教職員の方からも声かけをし、元気な挨拶が飛び交う活気のある校風を作っていきたい。基本的な生活習慣の確立については、家庭と連携し粘り強く取り組んでいきたい。
-----------------------------	---

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の取組(改善策等)
3 生徒の希望する進路の実現(キャリア教育の充実、「産業社会と人間」の活用による生徒の進路意識の向上)	① 一人ひとりの生徒に目を向けた適切な進路指導を行い、進路希望の実現を図る。	進路内定・決定率が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。	進路指導課集計より B 97%	厳しい雇用情勢であったが、対策が功を奏し就職内定率は最終的に100%に到達した。来年度も情勢は厳しいことが予想されるので、さらなる対策を講じたい。また、上級学校への進学体制も整えたい。
	② 総合学科1年次の「産業社会と人間」における様々な取組や担任との面談を通して、進路意識の早期確立に努める。	自らの進路を考える上で、「産業社会と人間」における学習活動は A 大いに参考になった。 B 参考になった。 C あまり参考にならなかった。 D 参考にならなかった。	12月生徒学校評価より A+B 75%	多くの生徒が「産業社会と人間」における学習活動を通して将来の進路を考えるきっかけや材料を得ていると思われるが、中にはあまり参考にならなかったと答えている生徒もいる。学習の内容や指導の在り方等についてさらに検討し、進路意識の早期確立に努めたい。
学校関係者評価委員会の評価	厳しい情勢の下で、就職・進学の内定率が100%に到達したのは見事である。一人ひとりに細かく目が行き届いているからであろう。引き続き、生徒それぞれに合った進路の実現に向けて、学校としての努力をお願いしたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	働くことの意義を理解し、進路の実現に向かってそれぞれが自ら積極的に努力して行くことができるよう、進路意識の向上に努めるとともに、面接指導、小論文指導等をさらに充実させ、進路実現のための支援を強化する。			
4 部活動の強化(全国大会での上位入賞、部活動の加入促進)	① 部活動への加入率を高めるとともに、継続的な活動を行い、活力ある学校生活を体験させる。	総合学科生徒の年度末部活動加入率が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。	生徒課集計より B 64%	来年度も総合学科の生徒が加入しやすい部活動を充実させ、加入率を上げていきたい。
	② 各種のトレーニング方法を実施することにより、県内でトップレベルの競技力を維持し、全国大会に出場してベスト8以上の入賞を目指す。	全国大会に出場した運動部が A 6部以上である。 B 5部である。 C 4部である。 D 4部未満である。	 A 6部	女子バスケットボール部、柔道部、なぎなた部、ソフトボール部、ウエイトリフティング部、射撃部が全国大会に出場した。今後もさらなる強化を図りたい。
	③ 生徒会活動を充実させ、執行部の企画力・実行力を養うとともに、学校祭等の行事を盛り上げ、活力と充実感のある学校生活の実現を図る。	生徒会活動が活発に行われていると答える生徒が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。	12月生徒学校評価より B 61%	生徒会執行部の企画力・実行力により、学校祭の内容は充実し盛り上がりが見られた。今後は学校祭以外にも生徒会活動を拡大し、さらに多くの生徒が参加できるように内容を充実させていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	総合学科の生徒でアルバイトをやっている生徒もいると思うが、可能であれば、できるだけ多くの生徒に部活動に励んでもらいたい。ときサポート隊の活躍を楽しみにしている。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	今後も部活動の加入率を高める取組を継続していくとともに、ときサポート隊の活動の輪を生徒会等にも広げていくよう呼びかけを行い、活動内容を工夫する。			
5 地域・保護者との連携(保護者懇談・地区別保護者会の充実、情報発信の充実、ボランティア活動への生徒参加促進)	① 保護者懇談・地区別保護者会を充実させ、学校と保護者との連携を深める。	保護者懇談や地区別保護者会での対話を通して、学校の教育活動に対する理解が深まったと答える保護者が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。	12月保護者学校評価より B 60%	保護者の方に本校の教育活動に対する理解を深めてもらえるよう、保護者懇談や地区別保護者会の時期・内容・開催場所等を検討し、さらに充実させていきたい。
	② 学校ホームページ、広報誌「おおしろ」、「津高通信」による情報発信を充実させるとともに、保護者に確実に情報が届くよう工夫する。	ホームページや「おおしろ」、「津高通信」により、学校の様子がよくわかると答える保護者が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。	12月保護者学校評価より A 74%	今後さらに学校ホームページや広報誌「おおしろ」「津高通信」の内容を充実させるとともに、携帯メール送信等を利用して情報が保護者に確実に届くよう努めたい。

	③ 地域と連携してボランティア活動を推進する。	ボランティア活動に参加しての感想は A 充実した活動ができた。 B ほぼ充実した活動ができた。 C あまり充実した活動ができなかった。 D 充実した活動ができなかった。	1 月生徒学校評価より A + B 58%	「朱鷺サポート隊による環境保全活動」「交通安全活動」「津幡町花いっぱい運動」「清掃活動」「食・農交流プログラム」など、様々なボランティア活動を実施した。来年度もさらに内容を充実させ、継続していきたい。
--	-------------------------	--	-------------------------------------	--

学校関係者評価委員会の評価	地区別保護者会は参加率が低いことが課題。ボランティア活動は、北斗隊などに一般の生徒も入れ活動の機会を広げていく必要があり、中津幡駅の清掃等にも取り組んだらどうか。情報の発信に力を入れるとともに生徒に対しては情報モラルの徹底をお願いしたい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	地区別保護者会については、参加率が上がるよう、開催時期や内容について検討したい。ボランティア活動は北斗隊等の活動の輪を一般の生徒にも広げるとともに、他のボランティア活動についても参加を奨励する。情報モラルについては、教科「情報」の学習等において徹底していきたい。